

2024年度第2回日本学連幹事会議事録

【日程】2024年9月28日(土) 16:28 ~ 19:26

【開催場所】馬籠ふるさと学校での対面開催 オンライン参加も可としてzoom併用

【議事録作成者】西澤汰知(東北大学)、石井雅人(東北大学)、早川正真(立命館大学)

【目次】

1.地図利用申請について.....	3
2.地図修正予算について.....	3
3.2022,2023年度決算について.....	4
4.インカレ枠配分改正について.....	4
5.学連合宿について.....	5
6.事業者契約について.....	6
7.日本学連による大学への支援について.....	7
8.日本学連40周年記念について.....	9
9.部局報告.....	9

2024年度第2回日本学連幹事会議事録

出席者(敬称略)

氏名	役職	学校名
遠藤陽太	幹事長	東京大学
石川翔太	会計	東京大学
森創之介	事業部長	横浜国立大学
加藤賢斗	事業部員	筑波大学
西澤汰知	広報部長	東北大学
早川正真	広報部員	立命館大学
石井雅人	広報部員	東北大学
湊菜々子	普及部員	茨城大学
久保田結理	渉外部長	東北大学
高橋悠	渉外部員	横浜市立大学
川瀬智尋	事務局長	奈良女子大学
毛利智紀	技術委員会	京都大学
坂本拓登	北東学連幹事長	北海道大学
古谷那奈	関東学連幹事長	千葉大学
森田龍雲	北信越学連幹事長	新潟大学
春田智哉	東海学連幹事長	名古屋工業大学
加藤優拓	中九四学連幹事長	広島大学
浴本悠貴	理事	神戸大学卒
田中基成	理事	筑波大学卒
根岸健仁	理事	一橋大学卒
倉上英	2024年度 ミドル・ディスタンス競技部門 関東地区代表選手選考会 実行委員会 競技責任者	慶応義塾大学卒
北江溪吾	2024年度 日本学生オリエン テーリング選手権大会 ミドル・ディスタンス競技部門 関東地区代表選手選考会 実行委員会 会計	慶応義塾大学卒

1.地図利用申請(久保田)

概要

現在メールで申請している地図利用申請をグーグルフォームを用いて行おうと検討している。申請の具体的な手順は検討中だが、できれば早いうちに完全にグーグルフォームに移行したい。

2.地図修正予算(北江:関東学連ミドルセレ 会計責任者)

概要

詳細の内容は資料を参照のこと。

関東学連ミドルセレで使用する矢板高塩について、地図修正調査を委託するにあたって学連から15万円の地図修正費用補助をいただきたい。

調査にかかる費用:33万円(昨年+17万円)

調査を委託した経緯:2020年度入学に地図調査に詳しい人材がいない、時間が取れないなどで実行委員会単独での地図作成が難しい。

そのため、宮西さんに全域高精度の調査を依頼することにした。これにより、高精度な地図の実現が見込まれる。また、今後のメンテナンスにかかる費用や頻度を抑えることができる。

調査にかかる費用が昨年と比べ17万円増となる金額になることへの対策:

今回の大会はセレクション大会であり、学生は参加の可否を選べない。そのため、参加費の値上げは好ましくない。運営費の削減、日当やレンタル物品の数の制限は削減が難しい。一方で、宿泊調査をせずに単日調査にすれば費用を削減できる。

これらの点から学連より15万円の地図修正費用補助をいただきたい。

質問

遠藤:会計の石川の意見を聞きたい。

石川:24年度の予算では、地図の開拓という点で60万円の金額が計上されており、現時点では支出の報告は受けていない。今後について他に支出の見込みがないのであれば、関東ミドルセレに対しての15万円の補助は問題ない。

古谷:関東学連として、セレで10万円の予算を組んでいるが、その予算を含んでいるのか。

北江:ロングセレ・スプセレの会計も担当しているが、合計でマイナス1万円程度であり、関東学連の予算はほぼ消化していない。

関東学連のセレへの予算の10万円を含まないで、ミドルセレの地図修正費用に15万円かかる見込みである。

遠藤:関東学連の10万円を利用せず、日本学連に対して15万円の補助を求める理由はなにか。

北江:今回の地図修正の結果では、セレに限らず全国の学生が恩恵を受けられる。

根岸:現状山川さんに地図修正代として30万円支払っているが、そこから捻出するのか。

遠藤(前年度会計):2023年度予算ではもともとは120万円+地図修正代の30万円を想定していたが、実際にはYMOEは夏以降業務ができていなかったため、150万円をYMOEに支払うことは少なくともない(契約や取り決めを追って行うことになる)。

支払いは4月ではなく、基本的には年度が終わった後に行っている。

今回の矢板高塩は一次的な修正ではなく、計画的で大きな修正であるため、120万+30万円の予算から出すより、60万円確保している修正予算から出すのが適切な気がしている。

坂本:来年のミドルセレ以降であっても、同じような請求が起こることがあるのか。

北江:来年度以降のセレがどこで行われるかによるため、答えられない。

遠藤:2023年度のセレでも日本学連から修正費用を補助した。

決議

全会一致により、承認

3.2022,3年度決算(遠藤)

概要

2023,2022年度決算の詳細な内容は資料を参照のこと。

2023年度の暫定決算について。

学連の地図販売収入と矢板塩田(ロングセレ)での地図修正費用が判明していないこと、インカレの貸付金がまだ返っていないこと、会計監査を行っていないことから、次の総会までにまとめて報告しようと考えている。何か決算で問題点がないか確認してほしい。

2022年度の決算について総会に提出したが、勘違いしていた点・YMOEからの指摘があったので報告する。

黒字が130から120万円になるなどの変更点がある。問題点がなければ次回の総会に提出する予定である。

4.インカレの枠配分改正について(毛利)

概要

作成したインカレの枠配分の規則からパブリックコメントをいただいた。作成したインカレの枠配分の規則に関しての詳細な内容は資料を参照のこと。

パブリックコメントは数件来ているが、規則への具体的な指摘ではなく、制度変更後にしっかり検証してほしいという意見だった。規則自体の大きな変更はない。

ランキングの期間に関しては全日本大会の規則にのっとりインカレ開催日から86日さかのぼった日とした。

次の日学総会にかけて賛成多数であれば施行する予定である。

5.学連合宿(毛利)

概要

2024年度第2回日本学連幹事会議事録

去年は技術委員会の柴崎さん、一昨年は理事の谷野さんが担当していた。学連合宿の担当が誰なのか明確に決まっていない。
個人的な事情で運営できるとすれば1月になる。もし2月に開催する場合は、技術委員会では担当できないため、他に依頼したい。
1月の場合は参加者を多く見込めないと考えられる。
意見を伺いたい。

質問

遠藤: 12月～2月でバッチングしている大会はあるのか。

毛利: 12月はミドルセレがあり、その次の週は他の大会運営があり難しい。年末年始は今のところ笠間の百八式くらいで、1月はあまり大会がない。2月は頭に全日本スプリントがある程度で、3月は各クラブが合宿を行うのではないかと考えている。

遠藤: 現段階で同時期に冬合宿などの合宿の予定が決まっている大学はあるか？あれば日程が被らないようにしたい。

毛利: (京京立)例年、春インカレの1週間前か2週間前に合宿をしている。

森: (KOLC)たいていは学連合宿がかぶらない時期に合宿を行うのではないかと思う。

遠藤: まだスケジュールを確定させている大学は少なそうなので、他との兼ね合いを考えて、日程を決めていく。

遠藤: 12月・3月は厳しいと思うので、1月か2月での開催について意見はあるか。

毛利: 栃木開催の場合、試験が近いと関西からは参加しにくい。

遠藤: 毛利さんが運営できない場合、運営できる人はいるか。

浴本: できるが、日学としてどこでやるかと日程は決めてほしい。

遠藤: 山リハリレーとセットにする場合は、学連合宿は単日開催、セットにしない場合は2日開催である。

田中: そもそも山リハリレーは実施されるのか？山川順子さんなどに確認できているか

遠藤: やることになれば準備してもらえるということは確認している。コースプランナーなどは別で用意するひつようはあるが。

浴本: やることになるのか？山リハリレーは実施されない前提で話を進めた方がいいと思う。

遠藤: 山リハリレーはなく、2日間の学連合宿として実施する前提で進めたい。

森: 1月の4,5日はどうか。

坂本: 飛行機を利用する人にとっては、帰省ついでに行くことが可能なので行きやすい。

浴本: 個人的な事情であるが、1月4日は参加できない。

遠藤: 開催地について特に意見がなければ栃木開催の方向で動きたい。

坂本: 学連合宿で使うテレインは今後セレで使われない予定のものなのか。

遠藤: 坂野さんと打ち合わせを行っていく予定である。

毛利: 1月4,5日の開催だと社会人を集めづらそう。

遠藤: 2月に実施することになれば2月15-16日になると思う。

森:1月末はどうか。

坂本:学連合宿の目的はそもそも何なのか。

毛利:大学間の交流を促進する。単独で合宿を開けない大学に対して練習機会を提供するという意義が学連合宿にはあると思う。

坂本:大きいクラブの合宿とバッティングする問題点はあるか。

遠藤:人数が多いと相対的にコスパが良くなる、運営者のバッティングの可能性が少なくなる。

決議

学連合宿の日程

1,2月の各週

→調整さんを流して、明日中に回答する。得票数が多い順に第一希望としていく。

坂本:自分たちが参加できるかどうかで回答するのか、学連全体として適していると思われる日程を選ぶのか。

遠藤:前者で大丈夫。

6.事業者契約(根岸)

概要

去年まではYMOEが行っていた業務を明確にすることで、他の企業にも委託できるようになることを目指していた。各契約に関しては資料を参照のこと。

山川さんが動けない状態になってしまったため、急遽栃木県のテレイン管理・地図修正・地域渉外について坂野さん(坂野山遊地図企画)に依頼して行っている。契約書3枚を作り、10月から正式に契約を結ぶ予定。現在もすでに坂野さんは業務を行っている状態であり、契約を早期に結んで、委託料を早急に支払いたい。契約書について幹事会の決議を取りたい。

テレイン管理(地域渉外等)に関する業務委託料に関して

元々は年間契約を想定しているが、今回は期中始まりとなるため、10月1日～3月31日が契約期間となる。委託料は年間90万円である。今年度は半年間の契約であるが、実際は坂野さんは6月から業務を行っている。そのため、委託料は10か月分に相当する金額となっている。

地図管理に関して

地図印刷、コースコントロールの業務。栃木県に限らず、日本学連が管理している全てのテレインが対象となる。

地図修正に関して

この契約では基本的には軽微な地図修正を想定しているため、大規模な修正が必要な場合は第4条に基づいて対応を協議する。

質問

遠藤:インカレに関しての地図管理は除いているが、これはどういうことか。

田中:インカレはインカレ実行委員会が管理を決めるためである。

遠藤: 栃木県以外の日本学連のテレインに関してもこれらの業務は行われるのか。

田中: その通りである。

遠藤: 年間120万円という金額は、坂野さんの了解を得ているのか。

根岸: 果たして年間120万円で収まるのかどうかは、坂野さん自身も分からないため、増額するかどうかといった議論が来年度ある可能性はある。

遠藤: 10月1日まで臨時総会は開けないがどうするのか。

田中: 期間は遡及して設定できるため、契約としては問題ない。

決議

それぞれの契約についての決議

栃木県のテレイン管理に関する業務委託契約についての決議

全会一致により承認

地図管理に関する業務委託契約についての決議

全会一致により承認

地図修正業務に関する業務委託契約についての決議

全会一致により承認

7. 日本学連による大学への支援(遠藤)

概要

遠藤: 日本学連は予算の構造上、毎年50万円ほどの予算が余る。

その予算を適切な用途に使いたいと考えている。以前はJOAのシステムにのっとった研修会を予算を用いてただで受けさせていたが、希望者が数人であり、廃止となった個人的な考えでは、大学ごとの地理的な格差を埋めるために使いたい。例えば、日本学連から交通費を出して遠方の大学にコーチを派遣するなど。

坂本からは、運営や渉外の情報が偏っているため、ネット上で取得できるようになればよいという意見を聞いている。

北信越学連の森田からは、ランキング大会を地方で開く際の運営費補助、学生大会における新規テレイン開発の補助、OCADライセンスの補助などの意見をもらっている。

数年前には日本学連が提示したテレインに関して、地図作成を補助し、大会運営は大学に任せているという制度もあった。

これについて他にも案があれば嬉しい。また、どのような施策がいいかここで議論したいと考えている。

坂本: インストラクタ講習を1年生の時に受講した。人数が少ないため廃止となったが、内容自体は価値のあるものである。同様の情報をネット上で取得できれば良いと思う。大会を開く際の規則がどのようなものかや、北海道では渉外の手順が簡略化されており、本州での渉外手順(著作権団体への連絡、地元への回覧板などでの周知)が一般的でないため、そうした知識を得られた点もよかった。

森田:大会準備の人材不足の解決のため、ランキング大会を地方で開く際の運営費補助、学生大会における新規トレイン開発の補助、OCADライセンス契約の補助を行ってほしい。

遠藤:コーチの派遣制度を作るのが良いのではないかと。OB以外のコーチを派遣し、合宿等のプランナー・当日の指導をお願いするイメージ。交通費などを日本学連が負担する。

遠藤:インカレの参加費の補助は厳しいのではないかと。多くの人数で割ると金額が小さくなるため、インパクトも小さくなる。また、制度による不公平感が存在してしまう。

加藤(優):大会運営の引き継ぎ資料などがまだ存在しておらず、講習会やネット上などで情報提供があるとありがたいと考えている。

遠藤:競技面より運営面に関して悩んでいるのか。

加藤(優):競技面は大会参加などの機会があるが、大会運営の機会はないため、運営面の情報が欲しい。

坂本:競技力に関しては、最近の北大の実力を鑑みると、地図精度が高いトレインがあまりないこと、エリートがいないことが課題になっている。

遠藤:練習方法にも知識や流派がありそうだと思う。

森:競技面に関しては現役の人が考えているので、知識や流派はあまりないのではないかと。引き継がれているのは合宿の数くらい。ノウハウに関して、人によって異なるのではないかと。

毛利:京京立は人数増加傾向。去年から個人コーチの制度が導入されて、希望する人に対してOBOGがコーチとしてついている。春インカレ前の合宿はOBがレースを組むことが当たり前になっている。

川瀬:お金で解決できるかはわからないが、関西は近場の練習会や大会が少ないから、日学からの支援が欲しい。

森:京京立などは人数的に練習会を開くことが不可能ではないと思う。大会がない週はクラブ内で練習会を開いている。そのため、各クラブ次第だと思う。

北大や中九四が衰退に向かっていっているならサポートは必要。

久保田:練習会方法の共有は難しいが、各クラブのやり方などを学連合宿といった場で提示しあうことはいいのではないかと。

遠藤:具体的にどういうことをやると大会を開きやすくなるのか。

EAの派遣、大会運営についての情報共有、新規トレイン開発のサポート、OCADライセンス契約の補助などか。

情報共有は現実的だし、多額の予算がかかるものでもない。情報整備については具体的な形は分からないが、やる方針でいいか。

JOAやNishiPRO、坂野さんなどが出している情報をまずはまとめる。足りない部分について、日学内で担当者を決めるか、宮西さん・坂野さんなどと契約して執筆してもらう。

川瀬:後援申請している大会の報告書の使い道を持て余しているので、活用できないか。

遠藤:自分たちが大会や公開練習会を開く上で、どういう情報があると役立つか。

古谷:渉外をどこから行えばいいか分からず、市役所への渉外が県協会に先行してしまった。大会運営全体としてはわからないことがあれば昨年度からの引き継ぎや、先輩に直接聞くことで疑問を解決していた。

加藤(優):県協会との共催であるため、渉外については県協会にお任せしている。

人数不足が一番の問題であるが、フォレストの大会開催が数年ぶりなので、コースの組み方、会場の設営の仕方などの情報がない。

森: KOLCは現役でMulkaが使える人が一人もない。情報についてはなんとかなるはずではあるが、どこから探せばいいのかわからない。もし日学のHPIにリンク集などがあればありがたい。

遠藤: OCADの最新のライセンスは使いたいのか?(1ヶ月程度になると思うが)

→日本学連として2-3個契約して、希望する大学に数か月毎などに貸し出す形で前向きに検討したい。

8. 日本学連40周年記念で何をするか(遠藤)

概要

日本学連が今年で40周年になる。記念として何かやりたいなあと思っているが、アイデアがあれば教えてほしい。理事たちは全スプ前日の土曜日にパーティーを行おうとしているが、学生は行くのだろうか。

例えば、インカレでタイムが40秒だった人に景品を渡すなど。

石川: インカレ閉会式等で集合写真(人文字を作って上空から撮影)

森: 40周年記念を冠したキャンパスツアー

9. 部局報告

概要

資料の部局報告を参照のこと

質問

理事について

理事(浴本): インカレ実施規則の改正は理事→幹事会→総会の承認の流れでよいのか。

遠藤: それでよい

浴本: 秋インカレでUNIVAS CUP 安全体制支援制度を利用するために、UNIVAS SSCというのを取得しているか、年度内に取得する誓約をしないとイケない。そのため、UNIVAS担当の学生を決めたい。

普及部について

湊: 普及部員が関西にいるため、対面でのみちるべの参加が難しい。オンラインでの参加も問題ないか。

森: 一回目はサポートのためにも同席した方がよいと思うが、二回目以降であれば特に必要ないように思う。

坂本: 練習会申請書はどうなったのか。

2024年度第2回日本学連幹事会議事録

遠藤:基本的には全ての練習会を報告して、各地区学連が見れるようにしたい。